

第1学年国語科学習指導案

1、単元名

がまくん、かえるくんにはなしかけようーきみならどんなひとことをいいたいかな？ー

教材：「お手紙」アーノルド・ローベル（教育出版1年）

2、単元の目標

（1）国語科としての目標

- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。
- 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表することができる。

（2）汎用的スキル

- 自分の考えた登場人物へ一言の理由を友達に伝えることができる。（伝える力）

（3）態度・価値

- 座席表にまとめられた登場人物への一言を読み、共通点と相違点を知ること、多様な考えがあることを理解する。（他者に対する受容・共感・敬意）

3、児童の実態

1年生にとって、学習課題に対して自分の考えをもち、言葉で伝えることは大きなステップである。逆に、1年生のうちに身につけていけば、学年が上がったときに、どうすれば分かりやすく、正しく伝えられるかを考える段階に移行することができる。自分の考えを伝えるために、自分の考えに自信をもつことが必要である。これまで物語教材で『きいろいバケツ』『おおきなかぶ』『けんかした山』を扱ってきた。『きいろいバケツ』では、一読総合法を用いて、区切りごとのきつねの子の行動について考えた。「自分だったら…」といった経験をくぐらせたり、「普通だったら…」と一般論を用いて語ったりしながら、細かい叙述に立ち戻り、根拠を意識させながら考えることを意識させた。『おおきなかぶ』では、繰り返しの言葉があると、どんな違いがあるかということ考えた。それにより「おおきな、おおきなかぶ」といった繰り返し表現の効果も実感していた。『けんかした山』は、場面、会話文、反復表現、オノマトペなどに着目させて子どもたちに読ませていくことで、様々な視点を子どもたちが獲得していった。ここまでの物語教材の学習の中で、国語科として、学んできた知識・技能を言語化し、共有することで、自分の主張に自信をもてる子が増え、堂々と発言する児童が増えてきた。

4、単元について

①教科から見た特性

本教材は、がまくん、かえるくんという中心人物の行動描写、会話文から構成されており、二人のやりとりや、行動が想像しやすいことから児童にとって感情移入しやすい教材である。また、お手紙を出したことを言ってしまうたり、中身を話してしまったりすることで、二人の仲が深まる4日間が生まれる場面のユーモアは秀逸であり、児童の心に残りやすい。さらに、行動の理由を考えるための、会話文、細かい行動描写のなどの必要な根拠も多く書かれている。本単元では、かえるくんに一言から子どもたち同士の考えのずれに気づき、そこから叙述に着目し考えることで、物語をより豊かに想像しながら、二人の友情を感じることができるような単元計画を作った。

②汎用的スキルや態度・価値育成の観点からみた特性

感情移入しやすかったり、根拠となりやすい叙述が多かったりすることから、子どもたちは自分の考えに自信をもち、学習課題次第で臆せず伝えることができることが予想される。また、座席表があることで、なぜあの子はこう書いたのだろうという疑問が自然と生まれることから主体的に聞く意識も生まれ、伝え合う場の設定としても効果的である。そういった伝え合いの中で、多様な考えを知り、友達の考えに興味をもちやすいことも考えられる。

5、単元計画と資質・能力を育成する主な手立て（全8時間 本時7/8時間）

	学習活動	関連する主な資質・能力	資質・能力を育成する主な手立て
第1次 (1時間)	・『お手紙』の全文を読み、あらすじを全体で共有する。 ・ワークシートに沿って、各場面の「がまくん、かえるくん」に一言を書く。	感性・表現・創造の力	○想像したことを表現しやすいようなワークシートの工夫
第2次 (6時間)	・それぞれの書いた「がまくん、かえるくん」に一言を基に学習課題を作り、自分の考えを書き交流する。	伝える力 他者に対する受容・共感・敬意	○考えのズレがわかる考えの一覧の座席表
第3次 (1時間)	・かえるくんと、がまくんに手紙を書き、読み合う。 ・他のアーノルド・ローベルシリーズの本を読む。		

7、本時の学習指導

(1) 本時のねらい

- ・本文を読み、場面の様子、登場人物の台詞、行動を自分の経験と結び付けて考え、まとめたことを発表することができる

(2) 本時の展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇資質・能力を育成する主な手立て ◆評価
導入 7分	○本時で交流する課題を確認する。 ・前の時間に書いたことを発表したい。 ・友達の考えも聞いて、自分が気がつかなかったことを知りたい。	
	かえるくんが、手がみのなかみを いったことについてかんがえ、こうりゅうしよう。	
展開 30分	○前時に自分が書いた一言の理由を交流する。 ・私は、お手紙の中身を言わないほうがいいって思いました。がまくんはお手紙がほしかったから、中身を言ったら、サプライズじゃなくなっちゃうからです。 ・僕も、似ていてせっかくあんなに一生懸命かえるくん書いた手紙なので、言わないでもらったほうが、がまくんにとってもかえるくんにとってもよかったと思うからです。 ・そもそもかたつむりくんに渡しちゃったからよくなかったと思います。それなら自分で渡しちゃえばよかったんだと思います。 ・でも、この前の授業でかたつむりくんに渡して4日間も待ってたからよかったって話もしていたから、自分で渡したらだめだと思います。 ・僕も、最初は言っちゃだめだよと思ったんだけど、最後にとても喜びましたってあるから、いいのかなと思いました。 ・たしかに、普通のお手紙だったら中身を言わないほうがいいのに、がまくんは喜んでるのは、なんだろう。 ○かえるくんが、お手紙のことを言ったのに、二人は幸せの気持ちになったのは、なぜか考え、交流する。 ・4日間待っていたのが、楽しかったんじゃないかな。二人は仲良しだなとここで思ったのだと思います。 ・それまでに、一生懸命かえるくんが頑張ったってわかったから、うれしいことには変わりがないのだと思います。	◇基本的には全体で交流するが、場面や状況に応じてペアやグループでの話し合いを行う。(グループワーク：伝える力) ◇発言内容が伝わりづらい時は、教師側が咀嚼して話したり、動作化したりして、理解をうながす。(動作化：伝える力) ◇補助発問に対して、自分の考えを早く書き終わった児童同士でノートを読みあい、考えを広げ受容させる。(他者に対する受容・共感・敬意) ◇焦点化が必要なことが予想されるので、交流の際、補助発問として提示し、考える時間を確保してから交流する。(学習課題の焦点化：伝える力) ◆場面の様子、登場人物の台詞、行動を自分の経験と結び付けて考えまとめたことを発表している。(発言、反応、ノートの記述)
結末 8分	○学習の振り返りをし、次時の見通しをもつ。 ・自分の考えをみんなに伝えることができた。友達の考えを聞いたら、なるほどと思うこともたくさんあった。 ・友達の考えに付け足しながら伝えることができた。後半に考えことも自分の考えを書くことができた。	

●記録映像 有